



教室の外の学びも見渡せる

授業前にコミュニティを形成

講義の規模や性質に合わせ、manabaで使用するツールを変えている漆原先生。小規模授業ではプロジェクト機能をメインに数種の機能を組み合わせています。興味深いのは、同じ機能であっても、授業の趣旨によって活用方法が異なる点。

例えば一般教養の実技科目「スポーツ方法実習」におけるウォーキングの授業では、主にコミュニティづくりのツールとしてプロジェクト機能を利用しているのだとか。同授業では、学生たちが毎回グループ分けされ、テーマや課題に合わせた歩き方を自分たちで考えます。

「筋力をつけるための歩き方、地域を知るための歩き方など、目標達成のためにどう歩くか。メンバーで、授業前にあらかじめ相談や下調べをするように指示しているんです。その時にプロジェクト機能があると有難い」。

プロジェクトを中心に機能をリンク

授業の流れとしては、まず個々が次回の授業でやりたい課題をアンケートで提出。所属グループが決定すると、コースニュースで発表されます。授業当日は、スマートフォンや携帯電話を使って、メンバーの代表者が歩いたルートと写真をグループの掲示板にアップ。他のメンバーも感想文を書いて提出します。

最終授業までには全6課題、全てをこなす必要がありますが、どの課題からやるかは自主性に任せているとのこと。「他学部・他回生と出会えるのは一般教養の実技科目ならではの」という考えから、班分けはランダムにして異なる仲間と協働できる機会を設けています。

作業用の掲示板で進捗状況を把握

「基礎演習」では、テーマに沿った調査

を行い、プレゼンテーションをするというグループワークが中心。ところが、学生たちは部活動やバイトなどもあり、グループ全員が授業外に集まるのがかなり困難でした。

「だったらプロジェクト機能で作業用の掲示板を作ってしまうと。学生には皆さんの頑張りがこちら側に見えるので、評価につながりますよと伝えています」。

2~3週に1度のペースで回ってくる発表に向けて、各グループはプレゼンテーション用資料の下書きをグループの掲示板にアップ。漆原先生からのコメントに従って、都度修正が入れられるため、誤字脱字や書式の間違いといった内容は、この段階で改善されます。授業では当日発表しないグループも、1週間の進捗状況を提出。いつ誰がどこで何をしたら、報告を上げます。

グループワークの中の個人にも視線

以前は指導に割ける時間が授業内に



スポーツ方法実習のプロジェクト課題のチームページです。履修生6~7人で6グループを作成して実習課題に取り組み、終了後にメンバー全員が感想文をチーム掲示板にコメントをします。最後に教員はチームに対して指導内容のコメントを書きます。チーム掲示板の公開範囲は、チームメンバーのみとなっています。

限定されていたため、学生の自主的な質問が無い限り、途中経過を把握しづらかったというグループワーク。評価単位がグループであるため、特定の学生に作業が集中した場合も、個人の頑張りが報われにくいという面もありました。

「今はアクセス数などから個々の動きがうかがい知れるようになりました。教員がちゃんと見ているというのは、学生の励みになります」。

講義形式の授業では復習に役立つ

プロジェクト機能を活用したコミュニティづくりやグループワークに重点が置かれて

いる小規模授業に対し、規模が大きい授業ではコンテンツを使用した資料の提示が中心です。授業で使用したスライドショーは、復習や欠席した学生へのフォローを目的として、当日中にアップ。

「講義では授業内容をまとめたプリントを配っています。授業中に重要部分の穴埋めや、書き込みができるメモのようなものですね。後からコンテンツにアップされているスライドショーを見ながら自分なりのノートを取る際、振り返りに活用してほしいんですよ」。

manabaが本当に生きるのは授業の外だと語る漆原先生。ツールを活かして授業外学習の幅を広げます。

授業規模

大規模

中規模

小規模

授業形態

講義

演習・実習

語学

manaba機能

小テスト

アンケート

レポート

プロジェクト

成績(採点結果)

掲示板

コンテンツ

コースニュース

出席